

オーストリアに極右あり

発表日：2017年10月10日(火)

～投票直前に二大政党のスキャンダルが浮上～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ 15日に迫るオーストリアの議会選挙では、欧州で最も若い31歳の首相誕生と極右政党・自由党が連立入りする可能性がある。2000年に自由党が連立に加わった際は、EU諸国が反発し、オーストリアに制裁を発動した。最近の自由党はEU離脱の国民投票の実施方針など極端な政策を封印しており、連立入りした場合も影響力は限定的との見方が大勢意見となっている。ただ、投票直前のタイミングで二大政党を巻き込んだ選挙スキャンダルが浮上しており、自由党が予想以上の票を獲得する場合には、欧州の政治リスクが改めて意識されることになろう。

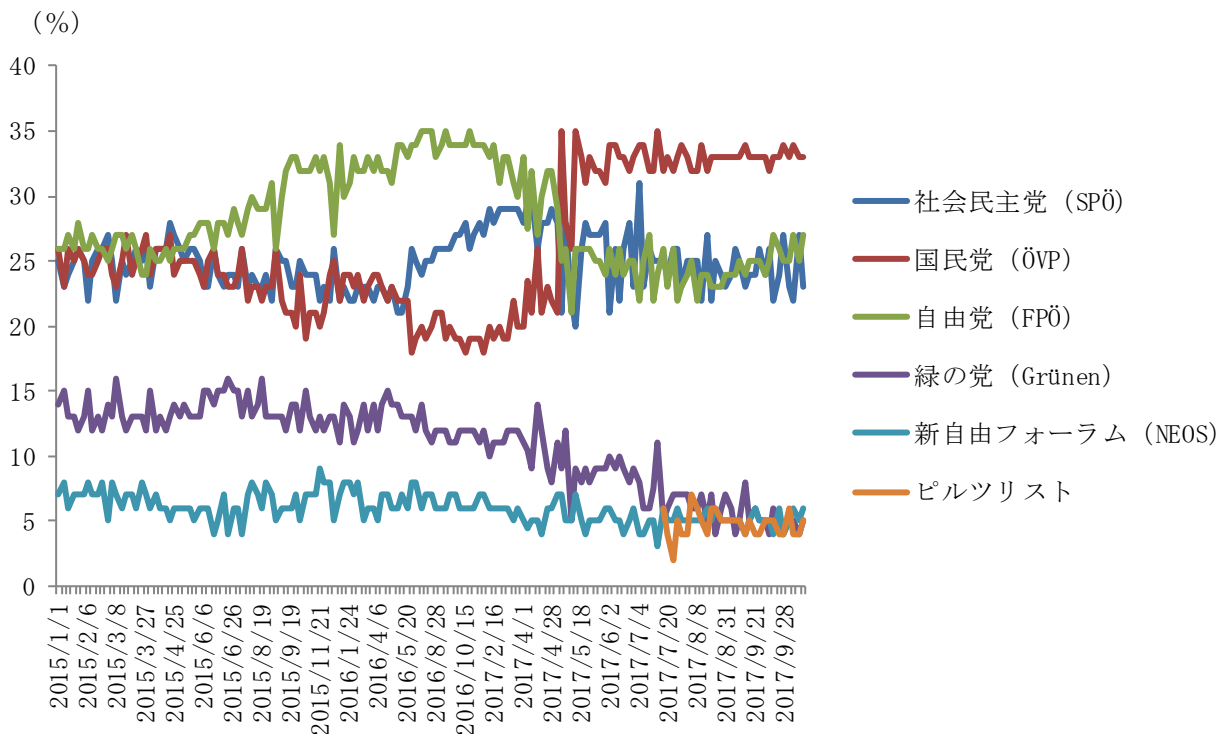
15日に国民議会（下院）選挙を控えるオーストリアでは、投票直前に二大政党のスキャンダルが発覚し、選挙結果への影響が懸念される。今回の議会選は長年オーストリア政界を率いてきた中道左派の社会民主党（SPO）と中道右派の国民党（OVP）による連立政権が崩壊したことを受け、議会任期満了を待たずに前倒しされることとなった。2015年秋に難民危機発生して以来、極右と形容されることもある右派政党・自由党（FPÖ）が各種の世論調査でリードしてきたが、OVPの新たな党首に若干31歳（就任当時は30歳）のクルツ外相が就任した今年5月中旬以降は、OVPがリードを固めている（図）。オーストリアはバルカン半島を北上してドイツなどに向かう難民の主要な通過国で、国民の間で難民問題への関心が高い。難民受け入れに厳しい態度を採り、バルカン半島ルートへの封鎖を主張したクルツ外相が、FPÖから票を奪った形となっている。2013年の前回選挙で勝利し現政権を率いるSPOと、2016年に行なわれた連邦大統領選で決選投票に駒を進めたFPÖ（決選投票では緑の党出身の候補が勝利したが、第二次大戦後の欧州で初めて極右出身の国家元首が誕生すると不安視された）が第2党の座を激しく争っている。

FPÖは元ナチス関係者やドイツ・ナショナリズムの提唱者が結党に参加した政党を起源とする右派系ポピュリズム政党で、オーストリア政界の第三勢力として過去にも二大政党が率いる連立政権に加わったことがある。1980年代後半にハイダー党首の下で右傾化を強め、二大政党批判や過激な反移民政策で支持を集めた。1999年の議会選で第2党に躍進し、第3党となったOVPとともに連立政権を発足したが、反EU的な連立政権の誕生に批判が集まり、EU諸国はオーストリアに対して各種の制裁を発動する事態に発展した。今回の選挙では、大連立の行き詰まりが選挙を招いた経緯もあり、クルツ新党首の下で右傾化したOVPがFPÖを連立パートナーに選ぶ可能性が高いとみられている。ハイダー時代以来の極右政党の連立入りは昨今の欧州ポピュリズムの伸張を象徴する出来事ではあるが、大統領選での敗北以降、FPÖはEU離脱の是非を問う国民投票の実施方針など極端な政策を前面に出すことを控えている。世論調査でもOVPに大きく水をあけられており、連立政権に加わったとしてもその影響力は限られるとの見方が一般的だ。フランスのマクロン大統領よりもさらに若い首相が誕生することを除けば、オーストリアの議

会選への注目度はそれほど高くなかった。

ただ、ここにきてドイツ連邦議会選でメルケル首相が率いるキリスト教民主・社会同盟（CDU・CSU）が第1党の座を守ったものの事前の世論調査と比べて苦戦、旧東ドイツ地域を中心に反移民・反イスラム的な政策を掲げる右派ポピュリズム政党・ドイツのための選択肢（AfD）が連邦議会で初の議席を獲得し、第3党に躍進した。また、スペインでは同国からの独立を巡ってカタルーニャ州の混乱が続いており、欧州の政治リスクが再浮上している。こうしたなか、今回のオーストリア議会選では、投票直前に二大政党を巻き込んだスキャンダルが浮上しており、現地メディアで連日大きく取り上げられている。疑惑はケルン首相が率いる現与党SPOが、イスラエル人の政治コンサルタントを通じて、選挙戦でリードするOVPのクルツ外相の移民政策などに関する誤情報をソーシャルメディアで発信したとのもの。SPOは疑惑を否定しているものの、先月末には党幹部が引責辞任に追い込まれた。疑惑の発覚以降、世論調査でSPOの支持率が低下傾向にあり、代わりにFPÖが支持を伸ばしている。さらに先週末には、OVPがSPOの選挙キャンペーンの内部情報の提供を求めて関係者に金銭提供を持ちかけたとの疑惑も浮上している。新たな疑惑が浮上した以降に発表された世論調査は少なく、OVPの支持率への影響は不透明だが、相次ぐスキャンダルに有権者の二大政党離れが加速する可能性がある。今回の選挙戦では投票日が近づいた後も、投票するかどうか、どの党に投票するかを決めかねている有権者が多いと伝えられてきた。FPÖが二大政党への批判票の受け皿となり、世論調査が示唆する以上の支持票を集めれば、改めて欧州の政治リスクが意識されることになる。無風の筈だったドイツ議会選が金融市場の動揺を誘ったように、日本時間の16日未明に判明するオーストリアの投票結果にも注意が必要だ。

(図) オーストリアの政党別支持率の推移



出所：各種世論調査より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。